

時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

前から

vol. 77
April/2013

 公益財団法人 札幌国際プラザ

〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル 3F
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001
JAPAN
TEL: 011-211-3670 FAX: 011-211-3673
E-mail: sjicpf@plaza-sapporo.or.jp
URL: http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

■ 特集①

札幌/北海道MICEコンテンツ・マート



P04

■ 特集②

国際プラザ創立25周年記念事業



P05

■ 多文化交流

学生国際合宿セミナー ほか



P11

■ コンベンション

国際観光コンベンションフォーラム ほか

札幌で初の開催となるMICE誘致イベント開催！

札幌／北海道MICEコンテンツ・マーケット



くす玉パルーンで幕を開けたオープニング

国際プラザが札幌市などと構成する「さっぽろMICE推進委員会」では、小樽市、倶知安町、ニセコ町との共催により、2月25日から3月1日までの5日間にわたって「札幌／北海道MICEコンテンツ・マーケット」を開催しました。このイベントは、MICEの開催地・目的地としての札幌および北海道の魅力を紹介することを目的として開催したもので、日本を含め10の国と地域から100名ほどの業界関係者を招き、「MICEコンテンツ展示会」や視察プログラムのほか、地元関係者とのビジネスセッション、レセプションなどに参加してもらいました。今回は韓国や中国・香港、豪州に加えて、タイやマレーシア、シンガポール、インドネシアといった東南アジアの関係者も参加しており、充実した都市機能に加え、スキーやスノーラフ

ティンクなど冬のアクティビティを満喫できる札幌に大きな魅力を感じているようでした。また、フランスの関係者からも、「札幌はおもてなしの質が高く、MICEの開催地として最高だ」と絶賛する声が聞かれました。また、このイベントには、札幌市民や道内の関係者に対して、札幌が街を挙げてMICEの誘致に取り組んでいることをPRするというねらいも。期間中には、メイン会場である札幌コンベンションセンターにおいて、さまざまな企業・団体とも連携しながらアジアのMICEリーダーによるトークセッションやボランテニア向け研修会のほか、求職者や若者を対象としたプログラムを行ないました。若者を対象としたセミナーに参加した大学生からは、「MICEの誘致やその基礎となる国際交流の必要性について認識を新たにしました。今後、自分も国際交流やMICE関連の職に就きたい」との感想が聞かれました。このイベントが、MICE都市札幌の基盤づくりに向けた大きな一歩となることが期待されます。



スペシャルトークセッション



展示会（会場全体）

いソーランやアイヌ・アートなどを、オリジナルの記念品を集めたゾーンでは、企業の社歌を入れたオルゴールや隠し文字を入れたオリジナルグッズなどを展示PRしました。

札幌／北海道の魅力を紹介！
MICEコンテンツ展示会

札幌コンベンションセンター・大ホールでは、25日と26日の二日間、「MICEコンテンツ展示会」を開催しました。展示会では、MICE関連企業の出展ブースに加え、会場を4つのゾーンに分けて札幌・北海道の魅力を多彩に展示しました。施設紹介ブースでは、札幌を代表するパティエ会場であるモエレ沼公園・ガラスのピラミッドや大倉山ジャンプ競技場のほか、札幌芸術の森や石山緑地などを紹介しました。また、北海道・洞爺湖サミットを機に活発化した「環境に配慮したMICE」をPRするゾーンでは、電気自動車や雪冷房システムなどを、エンターテイメントやアトラクションを紹介するゾーンでは、北海道を代表するよさこ

MICE誘致競争を勝ち抜くため、国際連携を強化！
韓国・タイのMICE
関連団体との連携協定調印

国家間・都市間での誘致競争が激しさを増すMICEですが、より多くの情報を収集し、誘致を成功させるには、地域や国を超えたパートナーとの連携を構築・強化することも必要です。国際プラザでは、2010年に韓国・大田コンベンションビューローとの間においてMICEの連携に向けた覚書を取り交わし、協力関係を構築してきました。こうした国際的なネットワークをさらに強化・拡大していくため、新千歳・バンコク間の直行便が就航したことを機に、タイ国政府コンベンション&エキシビジョン・ビューロー（TCCEB）との間において新たに連携協定を締結したほか、大田コンベンションビューローからスケールアップした大田マーケティング公社（DIME）とも、改めて連携強化に向けた協定を結びました（2013年2月26日）。



TCEB（タイ）との調印



DIME（韓国大田）との調印

※1 MICEとは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive（報奨・招待旅行）、Convention（大会・学会・国際会議）、Exhibition/Event（展示会・イベント）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指します。一度に大人数が動くだけでなく、一般の観光旅行に比べ参加者の消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が増えています。

※2 コンテンツ＝素材

6カ国19名のキーパーソンにも好反響! MICE適地札幌をアピール

コンテンツマートに併せて、中国、韓国、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フランスより19名を招請し、5日間の日程で実際のコンテンツ（空間・アクティビティ）を体験していただき、MICE適地札幌をPRしました。

大好評のハラールランチ

ムスリム（イスラム教）のキーパーソン向けに、北海道で唯一ローカルハラール（イスラム教徒向けの食事）認証を得ている加森観光による協力のもと、アートホテルズ札幌において「ハラールランチ」を提供しました。国内では、ハラール対応として、シーフードや寿司を提供することは多いのですが、しゃぶしゃぶ



寿司握り体験に挑戦

等々の日本食を美味しく安心して提供できる環境は珍しく、今回、イスラム圏からの参加者に大変満足いただけました。今後、新たなマーケットからの誘客に繋がることが期待されます。

広域連携でのおもてなし

札幌は、小樽、ニセコエリアと連携協力して、MICE誘客に向けたメニューを整えています。参加者は、札幌都心部から40分、北海道有数の温泉地、定山渓温泉で広々とした露天風呂を満喫。小樽では、総勢50名での寿司握り体験に加え、水族館ではペンギンたちによる歓迎、小樽に残る歴史的建造物での懇親会と、札幌とは違う魅力を堪能しました。また、ウィンターリゾート地ニセコでは、スノーモービルなどチームビルディング^{※3}・アクティビティを体験し、北海道が誇るパウダースノーに包まれながら、札幌・北海道ならではの魅力満載の5日間を堪能しました。



ウィンターアクティビティを満喫

テーマ性のあるウェルカムパーティとレセプション

ウェルカムパーティーは、市内中心部から20分のばんけいスキー場「ベルクヒュッテ」にて開催し、“空からの贈りもの”と題して、暖炉やキャンドルに囲まれた冬ならではの暖かいおもてなしの場となりました。ダイナミックな鶏の回転焼きやグレンデでのたいまつ滑走、日本屈指のジャズギタリスト山木将平氏の演奏など、サプライズ満載の演出で、参加者を楽しませました。

翌日のレセプションでは、一転して、“花と日本の和（輪）の心”をテーマに、ラベンダー色に装飾した会場で、道産食材を使ったエレガントな料理、「墨絵と太鼓・箏が創造する未知のパフォーマンス」やYOSAKOIソーラン踊りなど、札幌ならではの和の世界を楽しんでいただきました。



スキー場ロッジでのウェルカムパーティー

タイ国政府コンベンション&エキシビション・ビューロー(TCEB)・チェンマイ知事団 医療法人社団静和会を視察

札幌/北海道 MICE コンテンツ・マートで来札したタイ国政府コンベンション&エキシビション・ビューロー（TCEB）とチェンマイ知事一行が、2月27日、医療法人社団静和会の平和リハビリテーション病院および介護老人保健施設「エル・クオール平和」を視察しました。静和会は、医療・福祉・保健に関わる総合的なサービスを提供する医療複合法人です。少子高齢化や医療の高度化に対応すべく工夫された医療施設や、細やかな配慮で患者に接している職員の仕事ぶりなど、訪問団は写真を撮りながら熱心に視察。積極的に質問もしていました。現地には、タイ王国と日本の国旗や歓迎の花輪も用意されており静和会の温かいおもてなしにも心を打たれた様子でした。



※3 チームビルディングとは、同じ一つのゴールを目指し、複数のメンバーが個々の能力を最大限に発揮しつづー丸となって進んでいく——そうした効果的な組織づくりや、チームをまとめる手法のことをいいます。

国際プラザ創立25周年記念事業

もつと知ろう 世界の国
 ～SAPPOROこども領事2013～

この事業は、国際的な視野を持ち未来を切り開く力を持った青少年をはくむことを目的としており、平成23年度から実施しています。

11月17日（土）の任命式では、小学6年生40名に市内9カ国の外国公館等から「こども領事」の辞令が。着任後は20名の大学生・留学生サポーターとともに、中央図書館などでの勉強会も行い、「日本・札幌とのつながり」をキーワードに、各自が興味



全員で記念撮影

あるテーマを選びながら担当国について調べました。また、外国公館等の訪問では、領事や名誉領事に直接お話を伺い、調べた内容をまとめて、発表会に向けた準備を進めてきました。



任命状を手渡されるこども領事

1月20日（日）に札幌コンベンションセンター特別会議場で行われた発表会では、堂々と発表した「こども領事」たちに、来賓や観覧者から温かい拍手が送られました。参加した児童は、「調べていくうちに領事館の役割やその国についてたくさん知ることができ、楽しかった」「将来、こども領事で担当した国に行ってみたい」と感想を話していました。保護者からも「子どもの成長ぶりが感じられ、感動した」などの声が聞かれました。



領事館訪問

未来に向けてプロジェクト
 ～市立高校生によるプレゼンテーション・プログラム～

札幌国際プラザ創立25周年を記念して、これまでの25年間の経験を生かし、これからの未来に繋がるプログラムを企画。札幌の未来を担う若者達を応援・育成するプログラムとして標記事業を実施しました（1月19日（土）札幌コンベンションセンター特別会議場）。

札幌市立高校の生徒を対象に参加を呼びかけ7校がエントリー。「国際社会に果たすべき札幌の役割」のテーマのもと、冬休み中にプレゼンテーションを作成し、上田市長ほかによる審査結果を競いました。



7校20名の出場者たち

当日の発表内容は高校生ならではの柔軟で斬新なアイデアが満載。外国人観光客を案内する高校生ガイドの育成、雪の多さを活かした冷房システムや貯蔵設備、バイオガス発電やエネルギー作物の栽培促進、SNSを利用して札幌を世界に発信などの興味深い提言が次々と飛び出しました。

また、アナウンサーのような発声でのエレガントなプレゼン、聴衆を巻き込んだので双方向型プレゼン、あのステイプ・ジョブズスタイルでの説得力抜群のプレゼンなど、ハイレベルな表現力や技術を駆使したプレゼンは、約130人の聴衆をうならせました。



優秀賞に選ばれた新川高校の発表



大学生6か国38名が参加 学生国際合宿セミナー2013

札幌市の姉妹・友好都市5都市からの大学生19名と、留学生を含む札幌圏在住の大学生19名、計38名が、2月11日(月)から22日(金)までの12日間、「ともに考えよう! 多文化共生都市の未来」をテーマに、NTT北海道セミナーセンターで合宿セミナーに参加しました。5都市の学生が一堂に会するのは初めてで、参加人数も過去最大規模に。期間中は、異文化理解や教育、防災や就労等に関する講義をはじめ、「さっぽろ雪まつり」見学や「料理交流会」などの活動体験、市内企業・団体への職場訪問、グループでの意見交換など、多彩なメニューをこなしました。

また、様々な交流の場も用意され、市内4校に分かれて小学校訪問をしたほか、若い世代向けのプログラムとして「ワールドユースカフェ(後述)を開くなど、多くの人々と出会い、交流することもできました。

最終日の活動報告会では、2週間のプログラムを振り返るとともに、グループディスカッションでまとめた多文化共生社会の形成に向けた取り組みについて、各国の視点を取り入れながら札幌市への提言を発表。また、報告会に参加した市民の方とも意見を交換しました。



発表の様子

学生たちには、寝食をともにする中で言葉や文化の違いからスムーズなコミュニケーションに苦悩する場面もありましたが、国を超えた新しい友情を育みました。今回、築いたネットワークを生かして、今後それぞれのフィールドでの活躍が期待されます。



自慢の腕ふるいます

国際結婚は異文化理解?

2月18日(月)、STV北2条ビルにおいて、ワールドユースカフェ「国際結婚は異文化理解?」が開催され学生国際合宿セミナーに参加中の6か国の大学生と市民約100名が参加しました。実際に国際結婚をしているカップルからの経験談を交えながら、様々な意見交換をし、参加者からは「常識をお互いに押し付けないことが大事だと思った」、「身近にいない国際カップルのお話を聞いて、視野が広がった」などの声が聞かれました。

各国を知るセミナー

アメリカ名物のトリビアを紹介 〜アメリカを知るセミナー〜



11月29日(木)、国際プラザ交流サロンにおいて「第5回アメリカを知るセミナー」を開催し、札幌市国際交流員のハイディ・フェルダーさんが、アメリカの

観光名所や名物にまつわるトリビア(雑学や裏話)を紹介しました。自由の女神やデイズニーランドについての裏話から歴代大統領についてのトリビア、また、姉妹都市のポートランド市についても、ユニークでエコな街として有名な行事やお店を紹介しました。セミナーにご共催いただいた在札幌米国総領事館と国際プラザが運営しているアメリカンコーナーについても紹介し、アンケートに回答いただいた参加者に、アメリカンコーナーのグッズをプレゼントしました。

ロシアの大動脈シベリア鉄道 〜ロシアを知るセミナー〜



12月20日(木)、国際プラザ交流サロンにおいて「第32回ロシアを知るセミナー」を開催し、札幌市国際交流員のサゾフ・マキシムさんが、世界一の長さを誇るシベリア鉄道の歴史や車両の種類、車掌の仕事などについて紹介しました。シベリア鉄道には病院車両や教会車両があり、そうした施設がない町にとつて重要な役割を果たしていることや、車掌の仕事の裏話など、実際に車掌として働いた経験を織り交ぜながら貴重な話を聞くことができました。

英国旅行の作り方 〜イギリスを知るセミナー〜

1月24日(木)、国際プラザ交流サロンに



において「イギリスを知るセミナー」を開催しました。講師は、ロンドン在住30年、英国政府公認の観光ガイド資格「ブルーバッジ」を持ち、ベテランガイドとして活躍中の木島タイヴァース由美子氏。「イギリスには日本人が楽しく生きるためのヒントがたくさんあると思うので、ぜひ訪れてほしい」と話し、「礼儀を重んじるイギリスでは『Yes, please』と『No, thank you』がとても大切なフレーズ」とアドバイスしていました。

心まで温まる韓国のお雑煮トクツク 〜韓国を知るセミナー〜



3月14日(木)、札幌エルプラザ2階の食材研究室において「第37回韓国を知るセミナー」を開催しました。札幌市国際交流員のユン・ソヨンさんが、韓国の食文化やマナーについて紹介した後、韓国のお雑煮「トクツク」を参加者と一緒に調理し、試食しました。

定員を超える応募があり、抽選で選ばれた34名の参加者は、グループに分かれ、ユンさんにアドバイスを受けながら調理していました。煮干しをごま油で炒めるなど、日本ではあまり見られない料理法に「料理の良いヒントをもらった」ととても簡単で、全然辛くないので、ぜひ家で作ってみたいなどの声が聞かれました。

中国・韓国の子どもに

年賀状を書こう！

「こどもサロン冬休みイベント」

1月26日(土)、国際プラザ交流サロンにおいて、こどもサロン冬休みイベント「中国・韓国の子どもに年賀状を書こう！」を開催しました。

親子10組が参加し、旧正月(2月10日)を過ごす中国と韓国の子どもたちに「あけましておめでとう」の言葉を中国語や韓国語の文字で書いた年賀状を作成。中国のパンダや韓国の韓服を描くなどしながら、子どもたちは一所懸命取り組みました。子どもたちは、「中国ではお正月に餃子を食べると聞き、うらやましかった」「韓国語を書くのは難しかったけど、文字がパズルみたいで面白かった」などと話していました。



年賀状づくりを楽しむ子どもたち

日本の伝統文化を

楽しませよう！

「プラザの「ひな祭り」」

3月2日(土)、国際プラザ交流サロンにおいて、外国語ボランティアネットワークの主催で「ひな祭り」を開催しました。

お琴の演奏で開幕したあと、とても珍しい楽器である「尺ルート(日本の伝統楽器・尺八とフルートが融合したもの)」のミニコンサートが行われました。日本独特の楽器の音色に約80名の参加者は聞き入っていました。その後、茶道のお点前披露や着物の着付け体験が行われ、多くの外国人来場者が参加。また、実際に自分でお茶をたてる体験や折り紙のコーナーもあり、ボランティアの方々には手ほどきを受けながら、様々な日本の伝統文化を楽しみました。



珍しい楽器、尺ルート

安心して子育てを

「離乳食&母子保健セミナー」

国際プラザでは、札幌で子育てをしている外国籍市民をサポートする事業を実施しています。12月9日(日)には第5回目となる「母子保健・子育て支援セミナー」を実施。5カ国9名の父母が参加し、札幌市の子育て支援や予防接種の制度について学びました。



セミナーの様子

また、1月17日(木)には、「外国人のための離乳食・幼児食セミナー」を初めて実施。6組の親子が、日本の離乳食やおやつを見たほか、食育や食べ方について栄養士から話を聞いたりしました。子育ての悩みをもつ方からは質問もあり、栄養士からアドバイスをもらったあとは、安心した表情をしていました。

アメリカ文化に触れよう！

「アメリカンコーナー」

絵本読み聞かせ

12月1日(土)、「アメリカンコーナー絵本読み聞かせ」が開かれ、15組39名の親子が参加しました。在札幌米国総領事館のジョン・

ス総領事とバーバラさん夫妻が、5才から小学3年生の子どもを対象に、4冊の絵本を英語でやさしく朗読。ご夫妻によつて行われるイベントは初めてでしたが、自然で柔らかな語り口に、子どもたちは集中して聞き入り、会場は終始穏やかな雰囲気でした。



総領事ご夫妻による読み聞かせ

講演会

2月はアメリカ合衆国の「アフリカ系アメリカ人歴史月間」です。アメリカンコーナーでは2月23日(土)、在札幌米国総領事館のダフィー領事が、アフリカン・アメリカンによってもたらされた芸術や文学、音楽の「ハーレム・ルネサンス」について、写真や音楽を交えながら講演しました。

参加者からは、「ジャズ音楽やアメリカの歴史について、新たな発見をすることができました」などの感想が寄せられました。



講演会の様子

日本語で創ろう 多文化共生都市・札幌の未来 〈多文化共生シンポジウム〉

国際プラザでは今年度、日本で暮らす外国人が豊かで自立した生活を送るために欠かせない「日本語」をキーワードに、様々な事業を行ってきました。これらの取り組みについて市民に広く知っていただくことを目的に、2月24日(日)、「多文化共生シンポジウム」を開催しました。

基調講演では松本三子氏(愛知淑徳大学非常勤講師)が、国際結婚や海外からの移住などにより、複数の言語で育つ子どもと家族のためには、将来を見据えた支援が重要であると語りました。

その後、神谷順子氏(北海道大学非常勤講師)、三浦 正博 氏(北海道日本語教育ネットワーク運営委員)、後藤 道(札幌国際プラザ)の3人のパネリストが、日本語支援の現状と、担い手の連携によって生まれる可能性について話し合いました。「誰もが自分の経験や能力を活用して、外国人も日本人も安心して暮らす地域づくりの担い手になれる」というメッセージに、参加した約70名の市民は、熱心に耳を傾けていました。

松本氏(左)、コーディネーターの野山広氏(国立国語研究所准教授)



松本氏(左)、コーディネーターの野山広氏(国立国語研究所准教授)

防災講座とカーリング体験！ 〈札幌国際プラザバスツアー〉

文化庁委託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業」の一環として、11月23日(祝)にバスツアーを実施しました。この事業は、外国人の皆さんに楽しみながら日本語に触れてもらい、地域の日本人と交流を深めてもらうことを目的としています。

外国人と日本人合わせて34名の参加者は、まず、市民防災センターで災害時に共通言語となる「やさしい日本語」を学びました。「避難所」や「炊き出し」などという言葉は、外国人にとってはなじみがなく、分かりやすい日本語が必要であることを学びました。

続いて、どうぎんカーリングスタジアムでは、昼食交流会のあと、カーリング体験を行いました。ほとんどの参加者がカーリングは初体験でしたが、最後はミニゲームができるほど上達。「とても楽しく、交流が深まった」「自然に『やさしい日本語』で話していた」などの声が聞かれました。



全員で記念撮影！

医療現場で役立つ使える英語 〈医療英語・医療通訳セミナー〉

11月2日(金)、4日(日)の2日間、医療英語教育者として活躍されている押味貴之氏とジェームズ・トーマス氏を講師として、医療英語・医療通訳セミナーを開催しました。

今回で7回目となる当セミナーは、「医療現場で役立つ使える英語」がテーマ。医療に従事されている方のための「医療従事者編」、医療通訳に興味がある方のための「ボランティア入門編」、医療通訳ボランティアとして活動されている方を対象とした「スキルアップ編」の3つのコースで実施しました。

どの講座でも、まずは参加者同士の自己紹介から互いに打ち解けたあとのグループワークでは、活発に意見が飛び交っていました。さらに押味氏のユーモアあふれる、分かりやすい説明で、3時間の講座はスムーズに進行。講座終了後は講師に質問する参加者の姿も多く見られ、医療通訳・医療英語への関心の高さがうかがえます。



講師の押味氏

どうやって避難する？ 〈札幌国際プラザ防災事業〉

国際プラザでは、地震等の災害が少ない地域からきた外国籍市民への防災啓発や、非常時、国籍に関係無く協力し合うための防災訓練を行っています。

2月2日(土)には外国籍市民8名、日本人市民28名が参加し、災害図上訓練(DIG)を行いました。これは災害に強いコミュニケーションづくりを目的に、自分たちが住む地域の地図を囲み避難経路などを書き込みながら話し合いをしていくものです。外国人参加者ならではの意見もあり、大変有意義な訓練となりました。

また、国際プラザでは札幌市からの委託で、外国籍市民のための「携帯用多言語防災カード」を作成。避難方法や、連絡先等を確認できる情報が携帯式のカードに記載されており、万が一の際に対応できるものです。日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語の5言語表記となっており、日常的にも防災学習に利用できるものとなっています。



災害図上訓練(DIG)の様子

グリム童話編

「ドイツ語を楽しむ会」

12月8日(土)、国際ブラザ交流サロンにおいて、「第2回ドイツ語を楽しむ会」グリム童話編」を、札幌姉妹都市協会との共催で行いました。これは、ドイツ語学習者が交流を深めるとともに、日本人にもなじみの深いグリム童話劇を通して、見る人にもドイツの言葉や文化に親しみを持ってもらうことを目的としています。

今回は、11人の参加者が、グリム童話の「赤ずきんちゃん」「ヘンゼルとグレーテル」「ブレーメンの音楽隊」を演じました。参加者の配役は事前に決められ、本番まで各自練習をしてきました。当日、参加者は皆ドイツ語学習歴に関わらず熱心に演じていました。時折笑いを誘う場面もあり、観覧者にとっても楽しめる劇になりました。

審査員から主演俳優・女優賞などの発表があったあと、クリスマス月というこで、参加者と観客と一緒にドイツ語で「楽しく陽気にいこうよ」というクリスマスソングを歌いました。



出演者全員で記念写真

中国語学習の成果を発表

全日本中国語スピーチ

コンテスト北海道大会

10月28日(日)、北海道日中友好協会主催により、小学生から60代まで26名が出場して、2012年度「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」が開催されました。大勢の聴衆が見守る中、出場者は緊張した面持ちながらも自信を持って、日頃の練習の成果を発表しました。

朗読の部に出場した隅江靖雄さんは、長い間熱心に中国語の勉強を続けていることが評価され、特別賞として、札幌の友好都市である中国瀋陽市長賞を授与されました。



特別賞を受賞した隅江さん(左)

【暗誦の部 7名出場】

優勝 井上 聖子、準優勝 高田 静枝

三位 川尻 寛貴

【朗読の部 12名出場】

優勝 金森 恵美、準優勝 久保 いづみ、

三位 野間 美穂

【弁論の部 7名出場】

優勝 栗林 明日香、準優勝 大野 裕亮、

三位 小野 祥輔

【中国瀋陽市長賞】隅江 靖雄(朗読)

【最優秀賞】栗林 明日香(弁論)

中国をもっと身近に感じよう

「Let's play

中国語学生スペシャル」

12月22日(土)、「Let's play」中国語「学生スペシャル」が開催されました。大学生など13名の学生が参加し、中国人留学生7名と一緒にチームを組んで中国の文化紹介やゲームなどを一緒に楽しみました。

講師の札幌市国際交流員、賀小雲さんによる中国文化についての講演の後は、中国語での自己紹介や中国の文化に関する〇×クイズ、中国語の単語を写真で学ぶゲームも。中国語が分からない学生も、楽しく参加できるイベントとなりました。会場では、イベントが終わった後も学生たちが中国からの留学生と楽しく会話を続ける姿が見られました。



Let's play 中国語学生スペシャル

「世界各地からのゲストをあたたくお迎え、雪まつりホスピタリティ・ラウンジ」

YOKOSO SAPPORO、

札幌の冬の一大イベント「さっぽろ雪まつり」開催期間中、主に海外からの観光客に対する各国言語での観光情報の提供や日本文化に触れる機会を、市民ボランティアからのあたたかいおもてなしとともにお届けするため、札幌国際ブラザ外国語ボランティアネットワークとの共催により、交流サロンの一角を「ホスピタリティ・ラウンジ」へと衣替えしてゲストをお迎えしました。ラウンジスペースでは、札幌の冬の暮らし写真展のほか、いけば花実演や折り紙ワークショップ、長唄の披露に至るまで多彩な文化体験行事を開催。2月5日(火)から11日(祝)までの1週間にわたるラウンジ開設期間中、ニュージランドやベトナムなど合計19カ国/地域から96名の外国人ゲストが訪れ、市民ボランティアとの会話や文化体験を楽しんでいきました。



華やかな踊りと音曲に感動のひとつとき

「もつたない」が エコにつながる！ 2013カレンダーリサイクル市



カレンダーリサイクル市

カレンダーリサイクル市は企業や家庭で使用しないカレンダーを寄贈していただき、販売することで、カレンダーを有効活用し、環境保護につながる取組です。26回目となった今年は、1月9日（水）から15日（火）まで、札幌市民ホール（1月9日）、かでの2・7（1月9日～10日）、ラズプラザ札幌（1月9日～15日）の3会場で開催され、昨年を上回る約1万人の方にご来場いただきました。

収益金2,903,104円は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の「みどり一本」運動、東日本大震災子ども支援募金などに寄付されます。カレンダー・手帳の寄贈や購入、会場でのボランティア等を通してこの事業にご協力くださった皆様に、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

道産子ボランティアが 見てきた開発途上国 青年海外協力隊帰国報告会

10月27日（土）、独立行政法人国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊ボ



笑顔あふれる帰国隊員5名

ランティア経験者による帰国報告会が、JICA北海道（札幌）、札幌市、国際プラザの共催で開催されました。報告に立ったのは、医療従事者や教師等としてベナン、ウガンダ、ブラジル、ホンジュラス、フィリピンで2年間活動して帰国した、札幌出身者5名。それぞれの国の民族衣装をまとい、スライドを使用しながら体験談を紹介したほか、座談会ではボランティア経験を日本の社会にどう生かしていくか等について話し合いました。

休憩時間には、世界のお茶の試飲会も行われ、参加者は初めて飲むお茶を楽しみながら、5人の話を傾けていました。

国際プラザを会場とする報告会は初めての試みでしたが、参加者からは継続した開催を期待する声も寄せられるなど好評だったことから、4月21日（日）に二度目の報告会を行う予定です。

留学生のメンタルケアは？ 札幌圏大学国際交流フォーラム例会

平成24年度札幌圏大学国際交流フォーラム例会が、11月29日（木）に札幌市立大学サテライトキャンパスで開催されました。

今年度は、「留学生の受入れ・派遣に係るメンタルケアについて」がテーマ。まず始めに、池田伸子氏（北海道自動車短期大学学生相談室）、石井治恵氏（北海道大学国際本部カウンセラー）、三上謙一氏（北海道教育大学保健管理センター准教授）の3名から、各大学での取組や対応について事例発表がありました。三上氏からは、留学生が感じる特有の環境変化によるストレスを例に、環境変化は誰にとってもストレスであること、感じた不安を気軽に相談できる環境づくりが大切なこと、困難な状況をサポートしてくれる人間関係の構築が重要であることなどの説明がされました。

その後は各大学からの質問と情報交換が行われました。その中で発表者からは、「素人の直観は当たるもの。教職員は危険な印象を受けたら、すぐに留学生本人に聞いてみるか、一緒に専門家を訪れよう」と誘って「みる」など、教職員がその留学生を心配していることを、必ず伝えたほうがよいとのアドバイスがありました。



フォーラム例会

留学生が日本の お正月を体験！

国際プラザでは、外国人が気軽に参加できるイベントを通じて、地域住民と交流する機会づくりをしています。

12月8日（土）、札幌大学と福住町内会が協力して行う留学生のためのもちつき大会に、外国語ボランティア観光日本文化グループが参加し、折り紙人形作りや茶道を体験できるブースを開設しました。

また、12月27日（木）には札幌圏大学国際交流フォーラムとの共催で、お正月体験イベントを交流サロンで開催しました。留学生、日本人のボランティア学生など合計72名が参加。羽子板飾りやしめ縄、鏡餅などが飾り付けられた会場では、振袖・袴の着付けを体験した参加者が楽しそうに写真を撮っていました。

参加者は落語を聞いたり、二人羽織などのゲームで楽しんだりしたほか、年賀状やお餅、みかんなどでお正月気分を満喫。新しくできた友達と連絡先を交換しあう姿もみられました。



初めての振り袖姿。学生ボランティアも活躍

ドイツ国家公認宝飾細工師 マイスターが来札



マイスターによるジュエリー作品

札幌市出身で、現在は日本人初の宝飾細工師マイスターとしてドイツ・バイエルン州のミュンヘン市を拠点に活躍している、武市知子氏が、11月に来札しました。

11月21日(水)から28日(水)までの一週間は、国際プラザで作品展示と制作実演も。また、11月22日(木)には、ドイツ・ミュンヘンセミナー「マイスター編く」を開催し、ドイツのマイスター制度や教育システムについてお話いただきました。セミナーにはドイツから来ている札幌市国際交流員のクリスティアン・フィーツェックさんも参加。参加者は、日本とは異なるドイツの制度に興味深く聞き入り、質疑応答では多くの質問が寄せられました。

武市氏は、このほかにも、ミュンヘンクリスマス市 in Sapporoへの特別ブース出展やミニセミナーなども実施。マイスター制度を広く市民に知ってもらう貴重な機会となりました。



ミュンヘンセミナー

韓国・大田広域市から 市民訪問団が来札

さっぽろ雪まつりの開催に合わせ、2月4日(月)から7日(木)まで、札幌の姉妹都市である、大田広域市から市長をはじめとする市民訪問団76名が来札しました。

2月5日(火)には、大田・札幌姉妹都市委員会のメンバー20名が国際プラザを表敬訪問。金政泰(キムジョンテ)委員長が「札幌は、来るというより、帰るという感じがするほど親しみがある街。大田にはフード&ワインフェスタなど、世界中のワインや食べ物を楽しめるイベントや、その他にもお祭りがたくさんあるので、札幌の方々もぜひ来てほしい」と話していました。



大田-札幌姉妹都市委員会のメンバーが表敬訪問

知ってる？ 札幌の姉妹都市

12月15日(土)、札幌コンベンションセンターで開催された「SORAこそだてフェスティバル2012」に、国際プラザと札幌姉妹都市協会が姉妹都市を紹介するブースを出展しました。ブースを訪れた子どもたちは、国際交流員と一緒に、姉妹都市がある国の国旗の

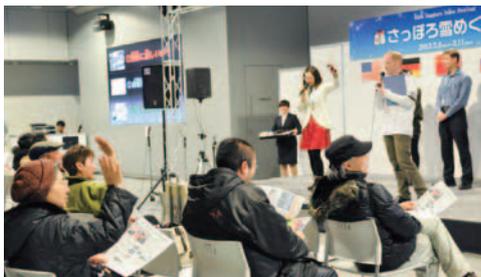


SORAこそだてフェスティバル

ぬり絵などを楽しみ、「ロシアの旗は上から白、青、赤なんだね」など、外国に興味を持った様子でした。

また、2月7日(木)と8日(金)の2日間、さっぽろ雪まつりに合わせて開催された「さっぽろ雪めぐり回廊」の環として、札幌駅前通地下歩行空間の北3条交差点広場で、姉妹都市を紹介するステージイベントを行いました。札幌市の5人の国際交流員が進行を務め、姉妹都市5都市の特徴などを紹介。また、「ミュンヘンの名物料理は?」「瀋陽故宮を作ったのは?」などのクイズを出題し、正解者には各国・姉妹都市にまつわる賞品をプレゼントしました。

2日間で約100名の方々にお立ち寄りいただき、各姉妹都市について、楽しみなながら知っていたかどうかを確かめたいという声も聞かれました。



姉妹都市紹介ステージ

札幌姉妹・友好都市の今 「瀋陽の氷雪まつり」

さっぽろ雪まつりは世界的に知られていますが、中国の瀋陽市にも氷雪まつりがあります。その「瀋陽国際氷雪まつり」は今年で16回目を迎え、1月10日から2月末まで開催されました。

氷雪まつりのメイン会場となる「氷雪大世界」は、観光名所の棋盤山(きばんざん)大世界にあります。期間中、氷雪大世界には、全長200mほどの子供用スキーコースから、初中上級者向けのコースが揃っており、誰でもスキーを楽しめます。そり滑りやスノーモービルをはじめ、スノーモービルで引張るパラグライダーなど様々なアトラクションも体験できます。氷や雪の彫刻まつりも同時に開催され、夜になると雪像や氷像がライトアップされて、幻想的な世界を演出します。



写真提供: 瀋陽日報

会場には農家風ホテルや、飲食店、お土産店などが点在し、温泉施設もあります。氷像を見たり、スキーを体験したり、東北地方のグルメを味わうなど、瀋陽の冬も魅力満載です!

(賀 小雲)

会議・イベント等の 業務担当者就職フェア MICEアカデミー



国際プラザでは、2月26日(火)・27日(水)の2日間、MICEコンテツマート(2ページ参照)に合わせ、MICEアカデミー「会議・イベント等の業務担当者就

職フェア」を実施しました。これは、国が進める雇用創出事業の一つとして国際プラザが受託して実施するもので、MICE関連業界への就職を目指す求職者を対象に、就職活動を支援するためのセミナーや求職相談などを主な内容としています。

このフェアでは、MICE業界情報や就業経験談の講演のほか、同時通訳を使った国際会議やコンテツ展示の見学、国際的に活躍する業界著名人のセミナー、さらにはMICE関連企業との求職相談なども実施。100名余りの参加者はどのプログラムにも熱心に取り組んでいました。

特に、日本政府観光局ソウル事務所誘致部長の任榮鴻(イム・ヨンホン)氏による「韓国から見た札幌/北海道のMICEの魅力」、社団法人日本観光振興協会副会長長船山龍二氏による「日本MICEの現在

と未来」の両セミナーは多くの参加者から「役立つアドバイスだった」と好評を得ました。

昨年6月の【初級編】、7月の【中級編】、10月の【企業セミナー】と、今年度は2ヶ月間の4つのコースで実施したこのMICEアカデミーは、次年度で3カ年計画の最終年度を迎え、実際の雇用へと結びつく成果が期待されています。



全国からMICE関係者が集合! 国際観光コンベンション フォーラム in 青森開催

「国際観光コンベンションフォーラム2013 in 青森」が、去る3月14、15日、青森市・弘前市で開催。全国の観光コンベンション関連団体・企業など70名余が参加し、「チームMICE日本、新たな挑戦」をテーマに日本



MICEの振興に向けて議論がかわされました。会場となった「ワ・ラッセ」は、大型ねぶたの展示場でもあり、ねぶた祭の魅力を感じながらの

フォーラムとなりました。

初日は、「縄文から現代を考える」と題し、縄文文化の視点に立った観光・MICEの可能性などについての特別講演から始まり、次の東北プログラムでは、青森県におけるMICEへの取組戦略の説明とこれを受けた参加者とのやり取りがありました。後半には「地域がつながる―新幹線とまちおこし」「地域MICEの新たな動き―ネットワーク化」をテーマにした2つの分科会を開催。参加者間で活発な意見交換が行われました。2日目のパネルディスカッションには、観光庁の高見MICE推進担当参事官らをパネリストに迎え、国際競争の中でのマーケティング戦略を展望しました。エクスカージョン後の弘前市内でのミーティングでは「街の魅力とMICE」と題して、弘前をはじめ各地の取り組みについて情報交換するなど、全国のMICE最新情報を共有する場となりました。



Greener Week

2012の実施

国際プラザでは、2011年度に引き続き、環境団体等と連携しながら市民の方々の環境意識を高め、より持続可能な地球環境の形成を目指したイベント

「Greener Week 2012」を実施。「未来に輝く北海道のために」いま私たちができることを考える―というテーマにより、10月10日から11月11日までの約1か月間にわたって6つの一連のイベントを実施しました。

「Greener」とは、地球環境に関心を持ち、環境問題に取り組んでいる人々を指し、札幌駅前通地下歩行空間でのステージイベントとグリーンナーストア等の開設、北海道大学構内での自転車「ペロタクシー」の学生ボランティアによる運行、自然との共生の視点からのアイヌ文化とバイオマス利活用を学ぶ、エコライフの魅力学ぶ八剣山スロースツアー、白旗山植林体験ツアー、クイズ形式の消費者セミナー、北海道を舞台にした能の公演などを実施し、多彩な催しにより、それぞれ多くの関心を集めました。

これは、札幌市MICE総合戦略の中に位置づけられている環境系会議週間「さっぽろGreener Week」の前哨事業であり、市民の環境意識の醸成を図るとともに、国際プラザが推進するグリーンMICEの振興とその市民理解を進めていくためのものです。

今後も継続的な事業実施を図り、「さっぽろGreener Week」の実行、環境系会議の誘致・創出を目指します。



八剣山スロースツアー

成されました。
海外との交流事業などで培った人脈を生かし、クラブ独自の活動展開を通じて、札幌の街に新たなビジネス交流のタネをまき、地域の活性化・グローバル化に貢献することを目指しています。

第一弾として、札幌へのMICE誘致に取り組み札幌国際プラザ・コンベンションビューローと、タイ国政府コンベンション&エキシビジョン・ビューロー(TCEB)の提携調印式が行われたチェンマイに会員が同行し、同国政府関係者等との人脈づくりや、ビジネスなど様々なテーマで情報交換を行ってきました。新千歳とバンコクの定期直行便が就航したタイとの交流の拡大につなげたいとしています。



タイ訪問の様子



同クラブ設立総会

新たなビジネスや、地域のためにもなるような事業を創出しようと、2月8日(金)、市内の食品、流通、運輸関連の9社と団体で「さっぽろグローバル・ビジネス・クラブ」が結

さっぽろグローバル・
ビジネス・クラブ結成

Information

インフォメーション

外国人のための 無料相談会

Free Legal Consultation for Foreign Nationals

北海道に住む外国人のために、在留資格・家族の呼び寄せ・交通事故・国際結婚・離婚・職場のトラブル・相続など、生活の中の問題について弁護士、行政書士が相談にのります。予約は必要ありません。日本語と英語で相談できます。

※ 秘密は守られます。



開催日	時間	主な相談員	相談できること
4月5日(金)	13:00~16:00	行政書士	ビザ、国際結婚など
6月9日(日)	13:00~16:00	各分野の専門家	セミナー「年金」 法律、ビザ、税金、年金
8月31日(土)	14:00~17:00	弁護士	離婚・職場のトラブル・相続など
10月4日(金)	13:00~16:00	行政書士	ビザ、国際結婚など
11月30日(土)	13:00~14:30	弁護士	セミナー(テーマ未定)
	14:30~17:00		離婚・職場のトラブル・相続など
2014年2月15日(土)	14:00~17:00	弁護士	離婚・職場のトラブル・相続など

受付終了は終了時間の30分前 共催：外国人法律支援ネットワーク、北海道在留手続協議会

コンベンション カレンダー

国際プラザ・コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新を行っており、約1年先までの開催情報だけではなく、既に開催された過去の情報も提供しておりますので、ご活用ください。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション

2013年5月	第5回3次元電磁探査国際シンポジウム	(100名)
7月	第36回内藤コンファレンス	(85名)
7月	ITU-R Study Group 5 Working Party 5D	(220名)
8月	第16回均一系不均一系触媒国際会議 (ISHHC2012)	(500名)
9月	2013年ワールドフラワーカウンシル サツポロサミット	(300名)
10月	The 18th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Information technologies (SASIMI2013)	(300名)

国内コンベンション

2013年5月	QCサークル札幌大会	(1000名)
6月	日本病理学会総会	(3000名)
7月	The 6th Pacific RIM Conference on Mathematics 2013	(300名)
7月	日本ボディビル連盟主催大会	(900名)
8月	日本理科教育学会	(1000名)
9月	第36回内藤コンファレンス	(65名)
9月	第2回病院ボランティア国際フォーラム	(500名)
9月	日本心理学会第77回大会	(3500名)
10月	日本血液学会学術集会	(4500名)